トップ企業が推進するオーラルケア事業

楽しく学ぶ歯と口の健康

ライオン　「全国小学生歯みがき大会」

子供たちも真剣な様子で正しいオーラルケアの方法を実践

ライオンは、ライオン歯科衛生研究所、日本学校歯科医会、東京都学校保健会と共に「歯と口の健康週間（6月4～10日）に合わせて」6月1日から10日まで、「第80回全国小学生歯みがき大会」を実施した。国内外の小学生が楽しく口と歯の健康の大切さを学べる場として位置付けるもので、今回は過去最高となる全国約4900校から27万人余りの生徒が参加した。

大会は、1932年の第1回開催から80回目を迎えた。現在は内容を収録したDVD教材を用いる方式で、国内外からの参加校は期間中、実施日時を自由に設定できる。小学生に歯と口の健康についての気付きを与え、健康意識を育むことに重点を置き、実習を交えて楽しく学べるような内容だ。

テーマは「歯と自分を磨こう！」と設定し、健康な歯茎の見分け方や、自分に合ったセルフケアの方法を学ぶことで、予防歯科への理解浸透を図り、同時にオーラルケアを習慣化することで継続性の重要さも学ぶ。

6月2日には、ライオンが新本社を開設した東京都台東区の蔵前小学校で大会を実施し、メディア関係者らにも公開した。大会で学んだ内容を復習できる教材や、毎日の歯磨きの習慣化につなげると共に自分の夢や目標の実現に向けて毎日記入できる「未来宣言カード」など、大会だけでなく年間を通じて活用できるコンテンツを提供した。

クイズあり　実習もあり

同校の5年生100人余りが体育館に集合し、特別ゲストとして来校した「ライオンちゃん」の登場で盛り上がりを見せた後、DVD教材による学習が始まった。回答することで知識を習得するクイズに始まり、ハンドミラーで自分の口腔内を観察して歯茎の状態をチェックするなど実習も数多く盛り込まれた。

配布されたハブラシとデンタルフロスを使ったオーラルケアのデモンストレーションも生徒全員で実施。虫歯や歯周病の原因になる歯垢が付きやすい箇所を知ったり、ハブラシの使い方の基本を学んだり、あるいはデンタルフロスを実際に使ったりして、歯科衛生士らのアドバイスも受けながら、それぞれのポイントを学んだ。

大会を終えた生徒の一人は「朝、きちんと歯を磨いているのに、フロスを使うとまた歯垢が取れてビックリした。今日学んだことは、家に帰って家族みんなに話をして、正しい歯の磨き方を知って、皆で毎日続けていきます」と語った。

ライオン　オンラインでメディアセミナー

歯科検診の重要性訴求

ライオンは6月1日、オンラインによるメディアセミナー「歯科健診のメリット」を実施した。

演題は、研究開発本部口腔健康科学研究所の山本悠氏による「企業における歯科健診のメリット　口腔健康と全身健康・生産性との関連性解析～歯科健診をより多くの企業へ～」と、歯科衛生士でもあるライオン歯科衛生研究所の久保田好美氏による「歯科健診のメリットと歯周病早期予防の重要性について」。

山本氏は冒頭、企業における歯科健診の現状として、依然として6割以上が実施していないことを指摘した。これに対して、企業が歯科健診を行うことによる従業員の口腔衛生への影響に関し、ライオンと日立製作所、日立健康管理センタによる共同研究の結果を紹介した。人間ドック健診の中に歯科健診を組み込み、受診者の行動や健康状態への影響を検証したもので、中でオーラルケア行動ではフロスや歯間ブラシの使用率が伸び、歯科通院率も大幅に高まっていることを示唆した。また「炎症により増加するエステラーゼが高めで健康状態の悪い人が3年間で20ポイント減少し、逆にエステラーゼが低めで健康状態の良い人の割合は10ポイント高まった。口腔健康状態が経年的に改善されていることを示している」（山本氏）という。

歯科検診の重要性を説いた山本氏㊧と久保田氏

更には、口腔状態と全身健康との関連性にも触れ、また歯科を受信した人ほど、口腔内の炎症が減少し、歯茎の健康状態も改善していること、また全身の炎症が減少傾向を示し、腹囲も改善されているとの研究結果も明らかにした。

その上で「従業員の方のオーラルケア行動と生産性の関連性も解析しており、行動の増加群では従業員のプレゼンティーズム（心身の不調を抱えながら業務を行っている状態）が改善された。こうしたパフォーマンス低下は、企業にとって損失と言える。歯科健診が従業員の健康増進、ひいては企業の生産性向上につながる可能性がある」（山本氏）と述べた。

久保田氏は、ライオンが社内で取り組んでいる歯科健診と、これに伴う調査の結果、同社従業員の口腔状態は厚労省の歯科疾患実態調査による全国平均と比べて極めて良好な状態であることを紹介した。また、歯を失う大きな要因の一つとされる歯周病を取り上げ、歯茎をチェックするアプリ「HAGUKI CHECKER」や、妊娠期のオーラルケアで注意すべき点などにも触れつつ「歯周病のリスクとなる要因は様々であるため、企業や自治体の歯科健診ほ活用して、自分の口腔内を把握し自分自身に合った対処を早期に行っていくことが重要」との認識を示した。